

マリレ情報よろず屋

平成27年10月発行第37号
第二管区海上保安本部
マリレジャー安全推進室

平成27年8月、9月 船舶事故及び海浜事故等

機関故障2件、転覆2件、運航障害1件、推進器障害1件、浸水1件
海中転落3件、**溺水**5件、磯場での孤立1件

事故事例 (機関取扱不注意/秋田県能代港沖)

事故者は、借りたA丸に1名で乗組み、沖で釣りを楽しんだ後、帰港しようと機関を起動しようとしたが、起動できずに沖に流されました。事故者はA丸の所有者に連絡し、同所有者が海上保安庁に救助要請するとともに、別の船を手配して救助に出動、A丸と会合して機関の起動を試みたところ機関は何ら異常なく起動しました。



船長として船に乗組むということは責任が重いことなんだよ！



そうかあ、私も船や海のことをもっと勉強しなきゃ！

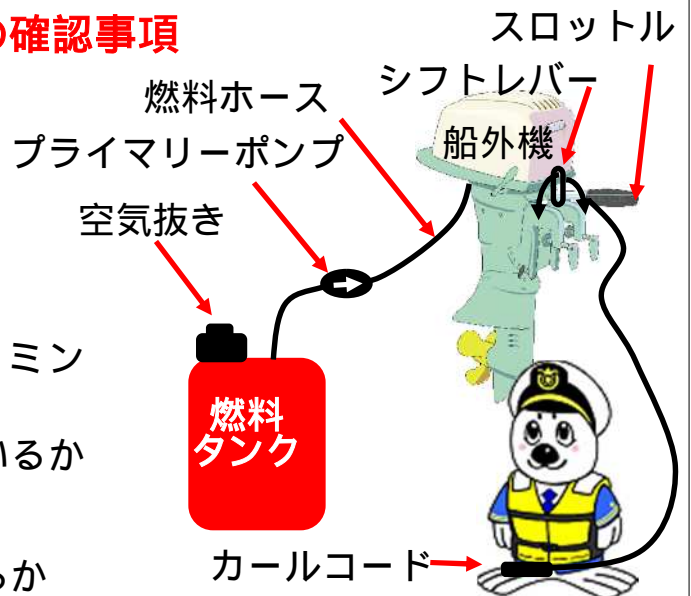
原因と対策

事故者の機関取扱いが未熟であったことが原因でした。船長として船舶に乗船した以上、船の上での責任は船長にかかってきます。1名で船舶に乗組み、海上に出れば助けてくれる人はいません。操船方法はもちろん、最低限エンジンの仕組みと点検箇所を把握しておきましょう。また、事例のように人に船を貸す場合は、貸す側も、機関の取扱い等、十分説明を行いましょう。

ワンポイント講座

船外機の始動時の確認事項

- 1、燃料タンクに燃料が十分入っているか
- 2、燃料ホースの向きは合っているか
- 3、燃料タンクの空気抜きが開いているか
- 4、燃料漏れがないか
- 5、プライマリーポンプで燃料のプライミングを実施したか
- 6、シフトレバーはニュートラルになっているか
- 7、カールコードを身体に取り付けたか
- 8、スロットルはスタート位置になっているか



事事故例 (浸水/宮城県七ヶ浜町沖)

事故者は、水上バイクに3名乗船し遊走していたところ、左旋回した際にバランスを崩して転覆しました。船体を復原しようとしたのですが、3名とも経験が浅く、復原させることができませんでした。その後、付近を航行中の他の水上バイク乗船者の協力で船体を復原することができましたが、復原まで時間を要したことから船内に浸水し、船体が半没状態となりました。



水上バイクの船尾には回転方向を説明したステッカーが貼られているよ！



原因と対策

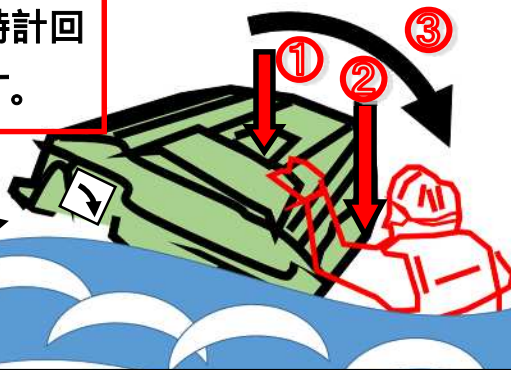
事故者の水上バイクを取扱う知識が浅かったことが原因でした。水上バイクはある程度防水性を持っていますが、転覆した場合は浸水を防ぐため、直ちに復原しなければなりません。今回は付近を航行する他の水上バイクがいたからよかったのですが、常に他の船舶が航行しているとは限りません。水上バイクに乗船する際は、自船の取扱い方法をしっかり把握した上で、安全にマリレジャーを楽しみましょう。

ワンポイント講座

水上バイク転覆時の復原方法について

- ・ エンジンが止まっていることを確認する。
- ・ 船尾側に移動し、貼付されている復原の回転方向を確認する。(多くの水上バイクは後方から見て時計回りに回転させます。)
- ・ 船尾側から船体中央の吸水口などを掴み、船体の船縁を手や足で押し下げ船体を回転させる。

後方から見て時計回りに回転させます。



時計回りに復原させる船舶の場合

吸水口に手をかけます。

船縁に足を載せ、体重をかけて押し下げます。

転覆した時は慌てず船尾に貼られているステッカーで回転方向を確認し、復原しましょう。

注意：回転させる際は、復原したバイクの下敷きにならないように気をつけましょう。



マリレ情報よろず屋

～バックナンバーはこちら～

MICSスマートフォン用サイト

(沿岸域情報提供システム)



マリレ情報よろず屋は、スマホでも見るができます。毎月10日頃発行
パソコンの方：「マリレ情報よろず屋」「MICS」で検索！